

令和6年度 各部各学年学校評価項目に関する評価

令和6年度 重点目標

- STEAM教育の推進と総合的な探究の時間の充実
- ICTの活用と主体的で個別最適な学習の推進
- 自己指導能力の育成を目指した教育活動の充実
- ウェルビーイングに基づく学校づくりの推進

令和6年度 学校評価項目 達成度：A=達成できた B=概ね達成できた C=あまり達成できていない D=達成できなかった

部・学年		評価項目・評価基準・達成状況等		達成度	学校運営協議会委員、PTAからの意見
部	教務部	<学校評価設定項目> ○校務の円滑な運営とICT化への対応を進め業務の効率化を目指す。…重点目標2、4より ○創立100周年に向けて資料の収集と整理を行う。…重点目標4より <達成状況・次年度への課題> ○校務支援システムの学校ポータルにおける行事計画書の添付やアンケート集計、掲示板の活用などICT化が推進できた。賢者では教務部と情報部の連携を行い、より活用しやすい環境整備をしたい。 ○100周年に向けて資料の収集と過去の貴重な資料の整理ができた。周年行事が終わっても引継ぎを行い、電子データ化も含めた資料の保存が課題である。	<評価基準> ○各種学校行事や教務部年度末のアンケート結果から評価する。	B	○保護者と生徒のアンケート結果は概ね肯定的であるが、保護者の自由記述にはネガティブな回答も散見される。これらの回答への対応が大切だと考える。 ○ICT機器の活用について、職員の校内研修等は実施しているか。⇒キャンパの活用研修を行った。また、2学期にICT活用月間を設けた。 ○STEAM教育の取組や発表は大変興味深かった。
	情報部	<学校評価設定項目> ○生徒が各教科、総合的な探究の時間において、ICT機器を効果的に活用できるように支援する。…重点目標1・2より <達成状況・次年度への課題> ○スタディサブリの利用状況は決して高いとは言えないが、学校評価アンケートからは生徒が各教科・総合的な探究の時間においてICT機器を活用していると考えられる。ギガタブレットの活用が伸び悩んでいるが、タブレットの性能に起因する面もあり、他校と比較しても、タブレットは有効に活用されている。次年度も各教科を通じて、引き続き、スタディサブリの活用を促したい。	<評価基準> ○スタディサブリ及びスタディプラスの利用状況、学校評価アンケートの情報機器の項目から評価する。	B	○大教員から聞いた話だが、WordやExcelの基本操作やファイルのPDF化ができない学生が多いので、高校でも対応してもらいたい。 ○発達障害や不登校生徒への対応はどうか。【学校からの回答】スクールカウンセラーが月に2回程度来校して対応している。
	学習支援部	<学校評価設定項目> ○スタディサブリによる主体的な学習の習慣化を図る。…重点目標2より ○教科横断型授業の拡充を図る。…重点目標1より <達成状況・次年度への課題> ○スタディサブリの活用を更に促進していく必要がある。自主性に関しては課題が残った。また、学習時間の確保が必要であり、部活動のルールの順守や教育課程外としてのその在り方を今一度検討し、共通理解を語る必要がある。教科横断型に関しては、昨年度よりは実施できていたが、まだ限定的であり、全体での実施においては課題が残った。	<評価基準> ○スタディサブリの取り組み状況と先生方の実施状況から判断する。	B	○学校評価アンケートで生徒の自由記述もとってもらいたい。 ○学校からの連絡や情報公開の仕方について指摘があったが、どのように対応したか。【学校からの回答】全校集会やPTA総会等で説明した。 ○生徒・保護者と教員間で制服の着こなしについての明確な基準を作成中である。
	地域連携・探究部	<学校評価設定項目> ○総探プログラムの充実を図る。…重点目標1より ○外部連携体制を確立する。…重点目標1より <達成状況・次年度への課題> 探究力養成ミニプログラム、学年横断での活動など探究を深めるための取り組みを実施し、学校評価アンケートの肯定的意見が増加した。外部連携については那須塩原市、地元企業等の協力を得ることができた。連携先は一覧にしたものの、継続して連携実績をつくるとともに実績を活用しやすくまとめる必要がある。また、問い立てなどの探究プロセスの改善や担当教員に対する支援等も課題となった。	<評価基準> 学校評価アンケート、生徒・教員向け総探アンケートから以下の2点を評価する。○「体系的なプログラム・支援により、協働性や探究力を十分に養うことができたか」、○「係を中心とした連携体制を整え、連携先を増やしリスト化することができたか」	B	○STEAM教育や探究活動が社会に出たときにすぐに発揮できる力を育成できるとよい。大学入試につながるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力高められる取組をしてほしい。また、地域イベントへの生徒の積極的参加を促してほしい。
	生徒支援部	<学校評価設定項目> ○自己指導能力の育成と「多様性の尊重」についての理解を推進する。…重点目標3・4より <達成状況・次年度への課題> ○1学期に現金等の盗難が起きてしまったが、それを除けば全体的には落ち着いた学校生活を送れていた。 ○学校生活における正しい服装について生徒と教員の意識の差がある。自己指導能力という観点から次年度にむけて生徒の意識の変化を期待したい。また、長期欠席者の支援や対策が今後の課題である。	<評価基準> ○学校評価アンケートにより、生徒・教員の生徒支援に関する項目から評価する。	B	○PTA活動について今年度で支部を廃止し、1日単位や1年単位でボランティアを募る新形式に変わるが、保護者の積極的参加を促してほしい。 ○知識・技能がベースとなり、思考力・判断力・表現力も伸ばせると考える。知識・技能の重要性を忘れないでほしい。例えば、校外模試で平均点偏差値50以上、偏差値55以上の人数が何人以上、偏差値45以下の人数が0人など、数値目標を設定して取り組むなど工夫をしてもらいたい。
	特別活動部	<学校評価設定項目> ○生徒による自主的な活動を促し、学校行事等から生徒がウェルビーイングを実感している機会の充実を図る。…重点目標3、4より <達成状況・次年度への課題> ○行事という定まったものから、生徒が自発的に活動し、成長の機会となるようにしていきたい。学校評価アンケートにおいては、生徒教員共に良好な回答であった。特に数年ぶりの学校祭での食品販売や100周年事業での準備では、生徒の意見を取り入れながら、活動ができた。ただ、個別の行事では反省点も多々あり改善していく。また、今後の学級数の減少による生徒会費の捻出と部活動の精選は大きな課題である。	<評価基準> ○学校評価アンケートにより、特別活動に関する項目から評価する。 ○各行事での生徒の取り組みや振り返り等から評価する。	B	○選ばれる学校となるため、対外的な魅力の発信を心がけてほしい。
部	健康支援部	<学校評価設定項目> ○安全な学校づくりに向けて、職員だけでなく生徒が参画できる環境を作る。…重点目標4より <達成状況・次年度への課題> ○学校アンケートから「校舎内外の美化・環境整備に励んでいる」において生徒で67%、教員で89%があてはまる、おおむねあてはまるだった。また、委員会活動も一定の評価が得られる活動ができた。	<評価基準> ○学校評価アンケートにより、安全に関する項目から評価する。 ○保健及び整備委員会活動の取り組みから評価する。	B	

進路支援部	<学校評価設定項目> ○日々の学習記録、各種行事の記録と感想を取らせ、希望進路決定、実現に生かす。 …重点目標3より	<評価基準> ○学校評価アンケートの結果と、各担任からの情報を基に評価する。	B	
	<達成状況・次年度への課題> ○日々の学習記録の取らせ方、実施の程度は各担任ごとに異なり、未だ十分とは言えない状況である。来年度はもっと習慣化を目指したい。 ○進路に関わる行事は昨年度より充実したという意見があった。アンケートの結果も悪くはないものであったが、「あてはまる」の割合がもっと高くなるように改善していきたい。 ○放課後課外や土曜講座など、生徒の参加状況が良くなかった。また実施する教員側も多忙のため不十分な実施となってしまった教科もある。より良い形態を考えたい。			
渉外部	<学校評価設定項目> ○PTA組織を保護者・教職員双方の負担を軽減し、持続可能な組織となるよう改編する。…重点目標4より	<評価基準> ○学校評価アンケートと年度末の渉外部反省会により評価する。	B	
	<達成状況・次年度への課題> ○支部会主体からボランティア主体へ組織改編できたことは、保護者・教職員双方の負担を軽減し、持続可能なPTA活動を実践する第一歩となった。次年度の課題は新組織による事業運営の構築である。 ○保護者のPTA活動への関心は4割である。保護者の関心を引き寄せる方策を考えることも次年度の課題と考える。			
学年	一学年	<学校評価設定項目> ○学習習慣の確立と自己調整力の涵養。…重点目標2・3より ○高校生活の充実に向けての基盤の獲得。 …重点目標4より	<評価基準> ○家庭学習時間や学校評価アンケートの家庭学習習慣に関する項目、自らを高めていく力に関する項目により評価する。 ○特別活動や校外活動の取り組み状況により評価する。	B
		<達成状況・次年度への課題> ○学習に関しては、スタディサプリを活用し生徒の学習を促す働きかけを行い一定の効果は感じられたものの、学習習慣の確立までには至らず今後の課題である。粘り強く継続して指導を行っていく必要がある。 ○特別活動や校外活動に関しては、外部と連携した行事に参加するなど充実していた。今後も探究活動の一環として、校外のイベントやコンテストなどへの参加を積極的に促していきたい。		
	二学年	<学校評価設定項目> ○進路意識の高揚および学習の質と量の確保…重点目標3より ○高校生活の充実に向けての主体的な姿勢の育成…重点目標4より	<評価基準> ○生徒の学習状況や成績の推移を、家庭学習時間調査や定期試験・校外模試や各種調査により多面的に評価する。 ○行事や特別活動および校内外の諸活動を行えたかを学校評価アンケートや各種調査に基づいて評価する。	B
<達成状況・次年度への課題> ○進路意識・学習に向かう姿勢については、高い意識を持って行動できている者とそうでない者との乖離が依然解消していない。地道な努力を継続する姿勢が欠如している者が多く、学習時間の少なさや校外模試での不振といった結果に出てしまっている。 ○修学旅行や学校行事、部活動での主体的な取り組みについては評価できるものが多かった。				
三学年	三学年	<学校評価設定項目> ○進路実現に向けた学習習慣・質の高い学習の確立…重点目標3より ○学校行事や特別活動等の充実…重点目標4より	<評価基準> ○生徒の学習時間の増加や成績の向上を、家庭学習時間調査や校外模試の成績により判断する。 ○充実した行事や特別活動を行えたかをアンケートにより判断する。	B
		<達成状況・次年度への課題> ○学習時間、学習成績とも昨年比で低下した。家庭学習時間（11月調査）は、昨年の3学年と比べ24分減少。進研11月マーク模試偏差値も昨年3学年よりわずかに低下した。主体的な学びを重視しつつも、生徒の学習時間増加のための具体的な方策を検討し、実践すべきだった。 ○特別活動の充実については学教評価アンケートで9割近い肯定的回答があった。5年ぶりに食品販売を再開した学校祭でも3学年生徒は衛生管理に注意しながら充実した活動が行えた。		